

## 2012年度 事業報告

### 概況

他学会とも連携して活動するなど幅広く課題を取り上げて会員が研鑽するとともに、発表や議論の場を会員外にも提供しながら活動した。定期的な活動である学術総会、春季討論集会を開催した他、学会誌を2回発行しweb上で公開した。会員が議論を深めることを目指して、学会ホームページ上に会員の自由投稿欄「論議の輪」を設けた。

以上の如く実践的で具体的な活動を展開した。

「その他事業（収益事業）」については実績がなかった。

### I. 特定非営利活動に係る事業報告

#### 1. 第9回学術総会の開催

第9回学術総会を開催した。

日時：2012年9月26日（水）10:00～18:10

会場：日本教育会館

参加者：85名

内容：①奨励賞伝達式（1個人と5組織）

②奨励賞記念講演：6件

- ・高橋美加氏（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・富士フィルム株式会社 福岡正博氏
- ・日本電気株式会社 櫻井融氏
- ・ライオン株式会社 飯田教雄氏
- ・日本精工株式会社 小林一也氏
- ・DIC株式会社 小西明氏

③特別講演：なし

④一般発表：2件

⑤企画テーマ発表：1件

#### 2. 春季討論集会の開催

春季討論集会(2013)を以下のように社会技術革新学会と共催で開催した。

日時：2013年3月1日(金)9:30～19:00

会場：お茶の水女子大学

参加者：139名

テーマ「分野ごとのリスク認識と管理目標の現状と課題」

今年度は、分科会方式とはせずに、全テーマを全員一同に会して逐次討論する方式とし、合計 10 名のパネリストが問題提起した後、討論を進めた。パネリストと問題提起のテーマは次の通り。

北島洋樹氏（労働科学研究所）

労働安全衛生分野における短期的・長期的リスクの管理目標と課題

丹羽太貫氏（京都大学）

福島事故が明らかにしてくれた放射線リスク管理

西條政幸氏（国立感染症研究所）

インフルエンザウイルス感染症を例に、ヒト由来ウイルス感染症と動物由来ウイルス感染症のリスクとその管理を考える

広瀬明彦氏（国立医薬品食品衛生研究所）

化学物質の健康リスク管理に適用される評価結果と不確実性

永山敏廣氏（東京都健康安全研究センター）

食品中残留農薬の安全性確保

長田 敏氏（製品評価技術基盤機構）

消費生活用製品のリスクとリスク低減方法について

田部井 豊氏（農業生物資源研究所）

遺伝子組換え農作物・食品のリスク評価の考え方

山田 隼氏（製品評価技術基盤機構）

予測手法を用いたリスク評価の展望

甲斐倫明氏（大分県立看護科学大学）

リスクの正体を伝えるリスク表現とリスクの受容性について考える

向殿 政男（明治大学）

機械システムの短期的・長期的リスクと安全学

### 3. 講演会の開催

講演会の実施状況は以下の通りであった。

#### (1) 奨励賞記念講演

・実施日：2012年9月26日（第9回学術総会に合わせて実施）

・講師：高橋美加氏、松本真理子氏（国立医薬品食品衛生研究所）

「OECD 高生産量化学物質初期評価会議(SIAM)における日本の取り組み」

福岡正博氏（富士フィルム株式会社）

「富士フィルムグループの環境・化学物質管理への取り組み」

櫻井 融 氏（日本電気株式会社）

「NEC における化学物質管理について～製品含有化学物質規制対応を中心に～」

飯田教雄氏（ライオン株式会社）

「ライオンの環境への取り組み」

小林一也（日本精工株式会社）

「NSK の環境への取り組み」

小西 明 氏 (DIC 株式会社)

「DIC 株式会社の化学物質管理システムについてー化学物質情報総合管理システムの構築と活用ー」

#### 4. 学会誌『化学生物総合管理』の発行

(1) 第 8 巻第 1 号 (2012 年 6 月発行) 総ページ 61 ページ

報文 : 1 件 星川欣孝氏他『化学物質総合管理による能力強化策に関する研究  
(その 14) ーREACH 規則にみる化学物質総合管理の情報共有公開システムー』

特集 : 4 件 「OECD 既存化学物質初期評価シリーズ」

(2) 第 8 巻第 2 号 (2012 年 12 月発行) 総ページ 172 ページ

報文 : 4 件 星川欣孝氏他『化学物質総合管理による能力強化策に関する研究  
(その 15) ー化学物質の総合管理に関する法律要綱試案ー』

星川欣孝氏他『化学物質総合管理による能力強化策に関する研究  
(その 16) ー計画と呼ぶに値しない日本の SAICM 国内実施計画ー』

結城命夫氏他『化学物質総合管理に関する活動評価ー企業活動調査結果(2010 年度)および政府機関の追跡調査結果ー』

結城命夫氏他『化学物質総合管理に関する活動評価ー2011 年度企業活動調査結果ー』

特集 : 2 件 「OECD 既存化学物質初期評価シリーズ」

#### 5. 研究会活動

リスク比較研究会 (2011 年 7 月~2013 年 3 月) の成果の一部を題材にして、春季討論集会(2013)で更に広い討論を行った。

#### 6. 知見の集大成、体系化に関する事業

今年度中の活動実績はなかった。

#### 7. 教育・普及・啓発に関する事業

「知の市場」の講座運営に協力した。

(1) 「知の市場」の紹介をホームページやニュースレターで行った。

(2) 以下の講座について学会は連携機関になり、関係する会員が講師として協力した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
UT133	化学物質総合経営 概論	化学物質総合管理を目指す 国際協調活動に学ぶ—新たに 制定すべき総括法の基本的 枠組みと付加価値を生み 出す次の一手—	丸の内トラスト タワー	前期

#### 8. 講習およびセミナーの開催

今年度の活動実績はなかった。

#### 9. その他

##### (1) 自由投稿欄「論議の輪」の活用

2009年10月にホームページの「ちょっと一言」欄と「提言」欄を統合し、新たな意見投稿欄として「論議の輪」を設けている。2012年度は投稿件数が7件であった。投稿者とタイトルは以下のとおり。

星川欣孝氏

「アジア諸国に立遅れる日本に必要な化学物質総合管理法制の整備（緊急提言）」

星川欣孝氏

「国会事故調最終報告は、化学物質管理分野も含めた日本の規制法制と規制組織に対する全般的治療の処方箋でもある。」

増田優氏

「点の規制から面の管理へ—急を要する指定物質の規制から包括的な総合管理への構造転換—読売新聞 2012年7月31日朝刊第14面掲載の論点によせて—」

イエルバ・マテ氏

「化学物質の総合管理に関する法律案要綱（試案）に対する意見」

星川欣孝氏

「目的を誤り手続き違えた SAICM 実施計画は国際社会における日本の信頼を棄損する - 「SAICM 国内実施計画（案）」に対する意見—」

星川欣孝氏

「無視と無回答に満ちた SAICM 国内実施計画（案）に係るパブリック・コメントへの対応は日本の行政の民主主義を冒瀆する行為である」

有志

「日本の国際競争力を阻害する化学物質規制法の乱立と所管省庁の分立を是正する国際整合性の実現」

## (2) 奨励賞制度

2012年6月の第27回理事会で奨励賞候補者を審議した。

最終的に以下の1個人、5組織に決定した。

- ・高橋美加氏（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・富士フィルムホールディングス株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・ライオン株式会社
- ・日本精工株式会社
- ・DIC株式会社

奨励賞伝達式を2012年9月26日の学術総会で行った。

## II. 管理・運営に関する計画

### 1. 通常総会（第9回）

開催日時：2012年6月22日（金）

会場：お茶の水女子大学

- 主要議案
- ・2011年度事業報告、決算報告承認
  - ・2012年度事業計画、予算承認
  - ・定款変更の件（従たる事務所の統合）

### 2. 理事会

第27回から第29回まで3回開催した。

#### (1) 第27回 2012年6月5日(火)

- 主要議案
- ・2011年度活動及び決算の報告
  - ・定款変更案（従たる事務所の統合）
  - ・奨励賞受賞者選考の件
  - ・通常総会開催と議案決定の件

#### (2) 第28回 2012年10月10日（水）

- 主要議案
- ・第9回学術総会報告
  - ・中間期活動報告及び中間決算報告
  - ・会員動向報告
  - ・従たる事務所廃止手続き完了報告
  - ・春季討論集会計画
  - ・NPO法人の扱いについて
  - ・来年度事業及び事務局の在り方に関する自由討論

#### (3) 第29回 2013年3月8日（金）

- 主要議案
- ・2013年度活動計画と予算審議

### 3. 企画運営委員会

理事会と同時開催の形で開催した。

第 60 回 2012 年 6 月 5 日 (火)

第 61 回 2012 年 10 月 10 日 (水)

第 62 回 2013 年 3 月 8 日 (金)

#### 4. 編集委員会

E メール臨時編集委員会を活用しながら適宜開催し、学会誌の編集方針や内容の検討を行った。第 8 巻 1 号を 2012 年 6 月に、第 8 巻 2 号を 2012 年 12 月に発行した。

#### 5. 広報活動

##### (1) ホームページ

学会の PR ツールとして、ホームページを開設しており、適宜更新作業を行った。

##### (2) ニュースレター (会員宛て連絡ツール)

No.127~No.145 まで 19 回配信した。(2011 年度は 20 回)

#### 6. 会員状況

2012 年度の会員数の増減は下表のとおり。

	2012 年				2013 年
	4 月 1 日	変更	入会	退会	4 月 1 日
正会員	46			2	44
学生会員	1				1
賛助会員	4			2	2

賛助会員名簿 2013 年 4 月 1 日現在 (入会順、敬称略)

住友化学株式会社

三井化学株式会社

#### 7. 運営資金状況

当学会は、年度内実収入を会計処理基準にしている。活動内容を充実させること、大学研究室への過度な依存を解消していくことを念頭に置きながら支出管理を行った。

その結果、2012 年度は収入 937,850 円に対して 1,390,563 円の支出となり、当期としては 452,713 円の支出超過となった。

以上

※その他の事業 (収益事業) については、実績はなかった。